

つやま産業塾の様子

第16期経営能力開発講座

期間／平成23年10月～平成24年9月

	日程	講師等	概要	内容
平成 23 年度	第1回 平成 23 年 10 月 14 日(金)	塾長	開講式・塾長講話 塾生の自己・自社紹介	塾の沿革、講座の趣旨
	第2回 11 月 11 日(金)	塾長	塾生の自己・自社紹介	企業での自分の役割 講座での自分の目標
	第3回 平成 24 年 1 月 13 日(金)	アスクラボ(株) 代表取締役社長 川嶋 謙 氏	経営を考える第 1 回	仮説と検証
	第4回 2 月 10 日(金)	同上	経営を考える第 2 回	for the team
	第5回 3 月 9 日(金)	苺と米の専業農業 須江 寛臣 氏	経営者の思いを聴く第1回	嫌な農業から楽しい農業へ
平成 24 年度	第6回 4 月 13 日(金)	元・(株)クラレ専務 山陽技術振興会 会長 安井 昭夫氏	経営者の思いを聴く第2回	経営者の覚悟
	第7回 5 月 11 日(金)	企業見学	経営の現場を見る第 1 回	岡山リサーチパークインキュ ベーションセンター ナカシマメディカル(株)
	第8回 6 月 8 日(金)	企業見学	経営の現場を見る第 2 回	中国職業能力開発大学校 三井造船(株) 玉野事業所
	第9回 7 月 13 日(金)	インタロボット(株) 代表取締役 小川 浩基	経営者の思いを聴く第3回	ベンチャー企業の プラスとマイナス
	第10回 8 月 24 日(金)	塾長	成果発表会	一年間の成果(又は反省)を 報告書の形で発表させる
	第11回 9 月 14 日(金)	塾長	成果発表・塾長講話 閉講式(修了証書授与)	

第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第1回

1 日時 平成23年10月14日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール

3 講義内容

第16期経営能力開発講座第1回は、塾生の自己・自社紹介を中心とした開講式を行いました。

今期の経営能力開発講座には、22名の方が入塾されました。また、業種についても製造業、飲食業、不動産業等、様々な方が集まっています。

開講式では、今期よりつやま産業塾塾長に就任された可児弘毅先生が、長岡藩の「米百俵」の話を基につやま産業塾について説明され、「つやま産業塾を通して、経営者にとって重要な流行と不易について考えていただきたい。また、この産業塾を人脈作りにも役立ててほしい。」と挨拶をされました。

その後、今回参加されている塾生のうち、8名の方に自社・自己紹介をしていただきました。紹介方法は、プロジェクターや資料を使った紹介、塾生の前での口頭紹介等、様々でしたが、皆さんの仕事に対する思い、本講座を受講する意気込み等がよく伝わる内容でした。

開講式の後には、懇親会で塾生同士の親睦を深め、有意義な時間を過ごしました。

来月の第2回経営能力開発講座は、引き続き塾生の自己・自社紹介を行います。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第2回実施報告

- 1 日時 平成23年11月11日（金）
- 2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール
- 3 講義内容

第16期経営能力開発講座第2回は、第1回に引き続き、塾生の自己・自社紹介を行いました。

今回は、12名の塾生に発表していただきました。第1回同様、プレゼンテーションソフト、会社資料、会社紹介映像、口頭による紹介が中心となりました。初めて受講する方は、産業塾を仕事でどのように活かしたいか、複数回受講している方は、産業塾での更なる目標を発表しました。今期は第1期卒塾生も受講しており、当時の産業塾の様子等、貴重な話を聞くことができました。

発表後には、発表者への質問時間が設けられ、塾長や塾生からの質問に発表者が受け答えを行いました。

第1回、2回の講座により、塾生各々の仕事内容や考えを知ってもらうことが出来たと思います。

来年1月からの経営能力開発講座では、アスクラボ(株)代表取締役社長の川嶋謙氏をお迎えし、経営の基礎についての講座を行います。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第3回実施報告

1 日時 平成24年1月13日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール

3 講義内容

「経営能力開発講座」第3回は、アスクラボ(株)CEOである川嶋謙氏を講師に迎え、「経営を考える第1回～仮説と検証～」と題してご講演をいただきました。

アスクラボ(株)は、1973年に設立され、現在、組織営業力強化研修、パッケージソフト販売、システム構築といった事業を展開されています。

川嶋氏は、約10年前に津山市での活動に限界を感じ、東京に支店を開設されます。実際、現在の津山市での仕事量は、10年前の10分の1までに減っているそうです。東京進出後、1年半の間は売り上げが全くなかったそうです。しかし、ただ売れなかったという結果だけを見てしまうと、そのことに対して何も得るものはありません。川嶋氏は、自社商品が負けた理由を徹底的に洗い出し、その履歴を全て残したそうです。さらに、その情報を全社員で共有し、意見を出し合うことで次に活かしていったそうです。そして、約4年後には東京での結果も出てきたそうです。

売れるだろうという考え（仮説）とその実際の結果（検証）、この「仮説と検証」の差を情報共有により小さくすることで、よりお客様の望むものを提案・提供することが出来るということです。

また、自社事業の特徴等の見える化（明確化）、市場に対しての自社のサポート割合把握、お客様の情報共有等を行うことで新規開拓に繋げるということでした。

アスクラボ(株)では、これらの情報共有のノウハウを「PROナビ」というシステムでまとめ、パッケージ販売をされているそうです。

今回の講座では、川嶋氏の実験の経験に基づき、「仮説と検証」と「情報共有」の重要性を教えてくださいました。経営者だけでなく、それを支える社員にとっても現場で活かすことの出来る有意義な話でした。

次回の経営能力開発講座でも、引き続き川嶋氏に講座を行っていただきます。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第4回実施報告

1 日時 平成24年2月10日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール

3 講義内容

「経営能力開発講座」第4回は、前回に引き続き、アスクラボ(株)CEOである川嶋謙氏を講師に迎え、「経営を考える第2回 ～for the team～」と題してご講演をいただきました。

今回の講座では、お客様から仕事を得るためには、お客様から共感（信頼）を得ること、そして会社全体で一丸となることが重要であると教えていただきました。お客様の共感を得られなければ、相手はこちらの情報に耳を傾けません。そのためには、相手をよく理解しなければなりません。これは、仕事だけではなく、上司と部下、親と子等の人間関係も同じことが言えます。また、会社で一丸となり、お客様を満足させるために、「for the team」という考えが必要になります。

川嶋氏の会社では、「for the team」として、下記の11項目を実践されています。

- ① お客様は、悩みを解決するのに、相手が営業であろうと、技術、経理、社長、役員、フロント等々であろうと関係ない。
- ② 社内の都合で対応をすれば、大手と同じで中小企業は勝てない。
- ③ お客様、同僚問わず「困っていれば助けたい」という気持ち。
- ④ 「担当が違いますので・・・」と電話を他に回さない。
- ⑤ 「売ったら終わり」ではなく始まり。
- ⑥ 社長、役員含めて、「帯に短し、たすきに長し」の人間が社会を構成している。
- ⑦ 欠点を探すより長所を探す。（選別するのではなく育てること）
- ⑧ 「今いる社員がベスト」という気持ちでなければ戦えない。
- ⑨ 社員10人の会社であれば10種類の人間がいるということ。
- ⑩ 上層部の不安を解消するための会議はしない。
- ⑪ 注意、説教は3分以内。それ以上続けると逆効果。

これらの各項目を実践することにより、会社のムダを省くこともでき、限られた人材で最大の効果を出せるということでした。

川嶋氏のお話は、全てご自分の経験に基づいており、仕事だけでなく私生活でも応用することができることも多く、大変内容の濃い講座となりました。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第5回実施報告

1 日時 平成24年3月9日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール

3 講義内容

「経営能力開発講座」第5回は、苺と米の専業農家を経営されている須江寛臣氏を講師に迎え、「経営者の思いを聴く第1回 ～嫌な農業から楽しい農業へ～」と題してご講演をいただきました。

須江氏の実家は元来農業を営まれており、須江氏自身も少年時代から高校卒業後も農業の手伝いをされてきたそうです。

須江氏は、苺や米の栽培について、土、肥料、生育を科学・生物学的に研究されており、その非常に深い知識には大変驚かされました。

また、昭和37年頃には保護観察になった少年・少女の支援を行うBBS会というボランティアを経験されています。それ以降、ボランティア活動に関心を持たれ、現在は津山市教育相談センター「鶴山塾」で農業体験等の活動支援や作物の提供を行っています。

農業は多くの方々の食料を作る重要な職業ですが、日本の農業を取り巻く状況は非常に厳しいものがあります。しかし、自然栽培（無農薬・無肥料）等の特色ある農業を行うことで、日本でも農業経営は可能であり、このような時期に農業を始めるのも一つの方法だといえるとのことでした。

須江氏にとって、農業は苦しいものでなく、楽しいものであり、その農業に傾ける情熱は大変印象的でした。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第6回実施報告

1 日時 平成24年4月13日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2F大ホール

3 講義内容

「経営能力開発講座」第6回は、元・㈱クラレ専務で、現在、山陽技術振興会会長である安井昭夫氏を講師に迎え、「経営者の思いを聴く第2回 ～経営者の覚悟～」と題してご講演をいただきました。

講演の冒頭、安井氏は経営者の覚悟とは「自分の会社の方向性を考え、それを実行すること」であると述べられました。

この考えの例として、ヒロボー㈱社長の故・松坂敬太郎氏の話がされました。ヒロボーは紡績会社として設立しましたが、業績悪化から大手企業の下請けを始めたそうです。しかし、一会社として、下請けでない新しい事業を始めたいと考えた松坂氏は、世界中を回り、新事業のヒントを探しました。そして、松坂氏は、ラジコンヘリコプターを新事業にすることを決め、ラジコンヘリコプターの技術を農薬散布等にも活かすことで、ヒロボーを世界トップクラスの会社にしました。

安井氏は、会社の将来像は経営者しか描くことが出来ず、会社が永続するためには、最終的なイメージをしっかりと持っておくことが重要であると述べられました。

また、人生経験に無駄なことは一切無く、30歳までは何でもやり、45歳までは方向性を決めて一つの仕事をし、それ以降は、培ってきたことを応用していく。人生の中で、仕事が出来る時期は限られており、心身のバランスを取りながら仕事をするのが大切であると教えていただきました。

安井氏の講演では、経営者としての考えだけでなく、人生の先輩として、価値のあるお話をお聞きすることが出来ました。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第7回実施報告

1 日時 平成24年5月11日（金）

2 場所 岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）
ナカシマメディカル株

3 講義内容

「経営能力開発講座」第7回は、「経営の現場を見る第1回」と題して、企業見学を行いました。

（1）岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）

ORICはIT関連やものづくりの分野で新技術や新製品の開発を目指している企業や個人の支援を通し、岡山県の産業振興を図ることを目的として、岡山県が平成15年4月に設置した施設です。

ORICはインキュベーション施設として、国内で初めてPFIを導入した施設です。PFI（Private Finance Initiative）とは、民間資金やノウハウ等を活用して公共施設を整備したり、公共サービスを提供するために導入された手法です。このPFIの考えに基づき、ORICは岡山県及び関連機関・団体との密接な連携の下に、民間活力・ノウハウを活かして入居者の創業、事業拡大を支援しています。

ORICの主な事業は、施設提供、事業支援、創業支援、交流会・セミナーの開催等であり、5月11日現在で31社がORIC内に入居し、新事業の開拓を目指しています。

実際に入居されている企業の代表者（㈱竹田技研、メディエリアサポート(企)、ナノ・キューブ・ジャパン）からも研究内容や創業の苦しみ、楽しさ等の説明をいただき、塾生も多くの刺激を受けることが出来ました。

見学風景



（２）ナカシマメディカル㈱

ナカシマメディカル㈱は、ナカシマグループの医療部門として平成２０年９月に設立しました。

ナカシマメディカルでは、日本有数のプロペラ企業であるナカシマプロペラで培った技術を応用し、人工関節の製造を中心とした事業を展開しています。

プロペラと人工関節の製造工程は、「鋳造」→「機械加工」→「仕上げ」→「研磨」とよく似ています。プロペラ製造で培われた複雑な３次元曲面加工や、職人技を要する鏡面研磨の技術を人工関節で応用することが出来るそうです。

人工関節の展示室では、肩、肘、膝等の大きな関節から指の小さな関節まで、様々な種類の人工関節を見せていただくことが出来ました。

また、工場内は東側入り口から人工関節の材料を納入し、西側に移動するにつれ、緻密な作業を通し、人工関節が完成していきます。作業工程では、ホコリ一つ見逃さない徹底した品質管理をしており、人の体に入るものを作っているという意識レベルの高さを感じました。

日本での人工関節のシェアは海外製品が多くを占めていますが、品質では負けておらず、社員の方々のものづくりに懸ける情熱を感じる事が出来ました。

見学風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第8回実施報告

1 日時 平成24年6月8日（金）

2 場所 中国職業能力開発大学校
三井造船(株) 玉野事業所

3 講義内容

「経営能力開発講座」第7回は前回に引き続き、「経営の現場を見る第2回」と題して、企業見学を行いました。

（1）中国職業能力開発大学校

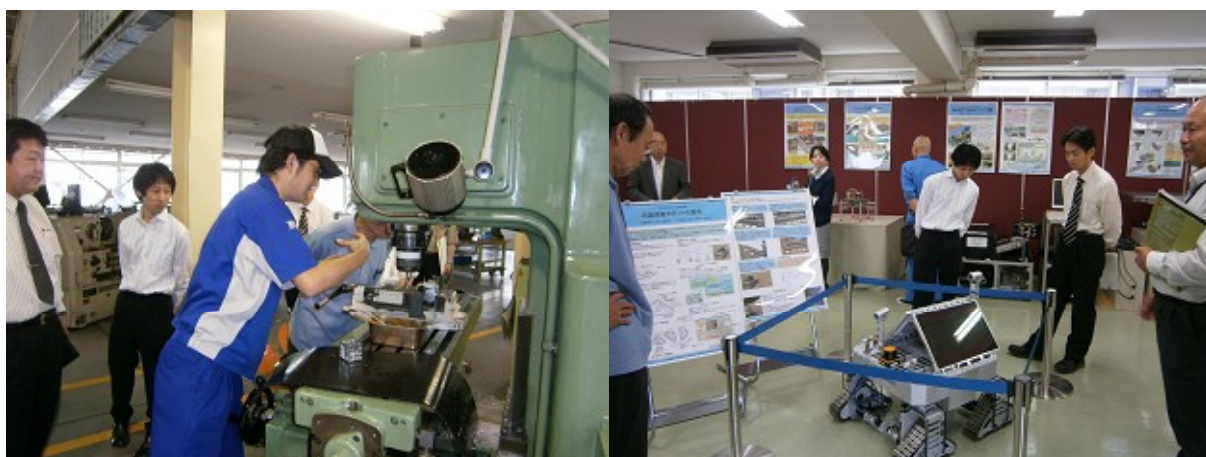
中国職業能力開発大学校（以下、「能開大」という）は昭和42年に雇用促進事業団玉島総合訓練所として始まり、平成13年に現在の専門課程（2年制）と応用過程（2年制）を持つ能開大となりました。

文部科学省が所轄とする大学と違い、厚生労働省の所轄する能開大は「ものづくり」の現場を支える技術者の育成を目的としています。よって、授業も仕事現場で必要な技術を修得できる内容となっており、卒業後は即戦力として企業に就職することが出来ます。

2年制の専門課程では、生産技術、電気エネルギー等の4科が設置されており、ものづくりの基礎を学んでいきます。専門課程終了後は応用過程に進学することも出来、製品の企画開発から製作までのより実践的な能力を習得することが出来ます。学校内の工作機械等も非常に充実しており、塾生達も感心しながら見学していました。

その他にも能開大では在職者訓練（能力開発セミナー）、企業との受託・共同研究等の事業も展開されており、ものづくり企業の地盤を支えている重要な学校であると実感しました。

見学風景



（２）三井造船㈱ 玉野事業所

三井造船㈱玉野事業所は、大正６年に三井物産㈱造船部として創業し、ばら積貨物船を中心とした船舶製造、エンジン、クレーン等の産業機械、新素材製造等の事業を展開しています。

今回は創業１００周年に向けて企画されている三井造船の資料展示室を見せていただくことが出来ました。展示室内には貴重な船舶、造船所等の写真や日頃見ることのない石油掘削船等の模型が展示してあり、三井造船の大正時代からの歴史を見ることが出来ました。

工場内の見学ではバスに乗り、船の巨大なブロックの溶接行程から建造中のばら積貨物船、艦船ドック、ディーゼルエンジンの組立工場等、広域な玉野事業所の主要部分を多く見せていただきました。

津山では見ることの出来ない大規模なものづくりの現場を見ることが出来、塾生からも担当者の方へ活発に質問が飛んでいました。

見学風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第9回実施報告

1 日時 平成24年7月13日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2階 第2会議室

3 講義内容

「経営能力開発講座」第9回は、インタロボット㈱代表取締役である小川浩基氏を講師に迎え、「経営者の思いを聴く第3回 ～ベンチャー企業のプラスとマイナス～」と題してご講演をいただきました。

小川氏は総社市にあるコアテック㈱に入社後、岡山県立大学でロボット工学の研究をされ、そこで培った技術を基に大学発のベンチャー企業であるインタロボットを設立されました。

講義の冒頭、小川氏はテレビ、ビデオ、カメラ、ゲーム、電話等の身近な電化製品を例にして、技術革新の流れを説明しました。現在、日本経済は停滞気味ですが、テクノロジーの進歩は止まるどころか加速しており、自分たちが今いかに面白い時代を生活しているのかを実感しました。

講義の中で、インタロボットのキーとなる技術として「i R T」を紹介されました。これは小川氏の事業で欠かすことが出来ず、自身の起業のきっかけにもなった技術です。「i R T」を組み込んだロボットは、人の音声に合わせて身体動作（身振り、手振り等）を行うことで、より人に優しいコミュニケーションを実現します。この技術はロボットだけではなく、パソコン端末やデジタルサイネージ等のインターフェースにも応用し、事業を広げられているそうです。

小川氏は「i R T」等の技術を使った事業の成功例と失敗例、技術指向の企業経営の難しさ等、技術者だけでなく経営者としても多くのことを教えてくださいました。

また、小川氏の仕事に対する哲学的なお話もお聞きすることが出来、塾生にとって大変内容の濃い講義となりました。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第10回実施報告

1 日時 平成24年8月24日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2階 北側大ホール

3 講義内容

「経営能力開発講座」第9回は、この1年の集大成として、塾生による成果発表会を行いました。

塾生には事前に修了レポートを提出してもらい、「塾生としてのこの一年間の成果（自己評価）」、「今後の課題と抱負」、「自分の経営能力開発に関し、塾での講座以外に取り組んでいるもの」、「仲間にひとこと」といった項目について、一人10分程度の発表を行いました。

今回成果発表を行った塾生は8人で、修了レポートを基に口頭、別資料、プロジェクター等を用い、各々のやり方で発表しました。事前にレポートをまとめていても、10分間で収まらない塾生がほとんどで、各塾生が産業塾や仕事に熱い思いを持って取り組んでいることが感じられました。

次回、経営能力開発講座第11回では、残りの塾生発表と閉講式を開催します。

塾生の意見・感想等

- ・ 自己をつねに新しい事にチャレンジする場に置くためにも、指導力を向上させたい。
- ・ 自助型システムの普及が自営的な雇用効果を持つと仮説して、シミュレーションにより、その妥当性をもう少し正確に検討するのが今後の課題です。
- ・ デジタルが主流となっていく中で紙の媒体である新聞をどう活用していくか、そしてビッグデータ時代に突入しているこの時代に新聞は何ができるかを考え、新聞としての役割を伝えていかなければいけないと思います。
- ・ この産業塾で学んだ事を活かし、現在行っているQC活動も含め、コストダウン・経費削減・生産性向上に取り組んでいきます。
- ・ 目標設定と失敗から成功へ繋げる事のチャレンジと心のあり方を学ぶことができた。
- ・ まだまだ勉強することがあると云うことを学ばせて戴きました。
- ・ 継続は力なり。諦めなければ、失敗なし。
- ・ 以て後は各部門、社員ごとにより具体的な目標が設定でき、それに対する実績がわかるようなシステム作りをしたいと思います。

講座風景



第16期つやま産業塾「経営能力開発講座」第11回実施報告

1 日時 平成24年9月14日（金）

2 場所 津山圏域雇用労働センター 2階 北側大ホール

3 講義内容

今期最後となる「経営能力開発講座」第11回は、塾生による成果発表会、修了証書授与、閉講式を行いました。

今回は一人12分の持ち時間（質疑応答含む）で、7人の塾生が発表しました。

塾生の意見・感想等

- ・ 津山の方に「図書館があって良かった」と言ってもらえる様な図書館にしたい。
- ・ 新しい仕事等にもっとチャレンジしていきたい。
- ・ 自分の産業塾参加の目的としていた「人の繋がり」と「自分の知らない世界を知る」事が出来たので良かったと思う。
- ・ 講師の話は自分自身も共感を持ち、今後行っていきたいと思える内容であった。
- ・ 3年間で築けた多くの関係・人脈。これが私の産業塾での最大の効用である。
- ・ 柔軟な考え方を持つ事等、ここでしか経験できない事が非常に大きな私の財産となっている。
- ・ 塾生でないと経験できない事がある。経営方針のお話、人脈の広がり等、塾生であったことを誇りに思っている。

成果発表後、可児塾長から修了基準（出席率5割以上）を満たした塾生13人に修了証書が授与されました。

そして、可児塾長より「皆さんのレポートを読ませてもらうと、それぞれ塾の成果があったように思える。この塾は人から教えてもらうのではなく、自ら学ぶ人に機会を与えるものである。その様な人ほど講座の中で多くのヒントを得られたと思う。これからは問題意識を持ってもらい、研鑽を積み、津山のリーダーとなってほしい。また、産業塾で得た人脈を大事にしてほしい。」との講話がありました。

塾生の皆さん、一年間お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。今後もつやま産業塾で学んだことを職場や地域で活かして、津山市のリーダーとして活躍することを期待しております。

講座風景

